



1号墓東溝検出



1号墓西溝《貼石の転落石検出》

図版93 専光寺脇遺跡



1号墓東溝土層



1号墓東斜面貼石
(転落石含む、東から)



同 (南東から)



1号墓西溝
貼石の転落石棟出
(東から)



同 (北から)



1号墓西溝断面

図版95 専光寺脇遺跡



1号墓（東から）



1号墓（西から）



1号墓東斜面貼石
(南東から)



1号墓東斜面北側貼石
(南東から)



同 (東から)

図版97 専光寺脇遺跡



1号墓東斜面貼石断面



1号墓南斜面貼石
(南から)



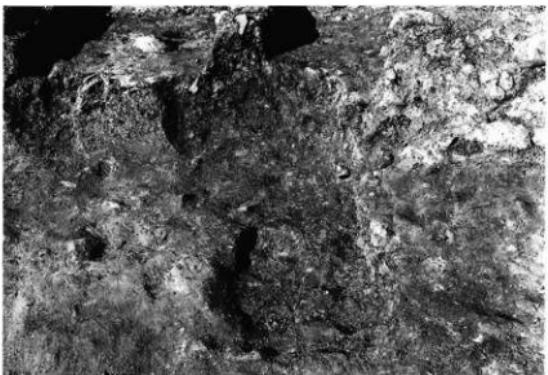
同 (南西から)



1号墓（盛土・貼石除去後）



1号墓西側埴堀



1号墓 第1主体



2号墓全景
(転落石含む)



2号墓東溝・貼石列
(転落石含む、東から)



同 (北東から)



2号墓全景（転落石除去後）



2号墓東溝・粘石列（転落石除去後、東から）

図版101 専光寺脇遺跡



2号墓東溝・貼石列
(北から)



2号墓東溝断面



2号墓東溝・貼石列（北東から）



同（土層ベルト除去後）



2号墓全景
(東溝完掘後)



2号墓全景
(SX 04完掘後)



2号墓東溝・SX 04完掘



2号墓 第1主体



2号墓 第3主体



2号墓 第4主体土層

図版105 専光寺脇遺跡



2号墓 第4主体完掘



SK 12



SK 13土層



SK 13礫検出



SK 15



P 9

図版107 専光寺脇遺跡



SK 01



SK 03土層



SK 04



SK 05



第154図 A-A' ライン土層



SX 03完振

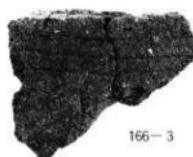
図版109 専光寺脇遺跡



164-1



166-4



166-3



171-6



171-9



166-2



171-12

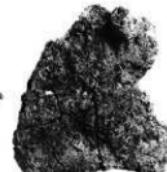


171-13



167-5

171-14



171-15

出土遺物

報告書抄録

フリガナ	オキティセキ センコウジワキイセキ							
書名	沖手遺跡 専光寺脇遺跡							
副書名	—中世の大規模集落遺跡と弥生時代の墳丘墓—							
シリーズ名	一般国道9号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	5							
編著者名	東山信治、白石純、松下孝幸、JFEテクノリサーチ株式会社、パリノ・サーヴェイ株式会社、伊東隆大、文化財調査コンサルタント株式会社、株式会社地球科学研究所							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai							
所在地	〒690-0131 島根県松江市打出町33番地 TEL: 0852-36-8608 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp							
発行年月日	2008年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
沖手遺跡	島根県 益田市 久城町	32204	Q271	34° 41' 36"	131° 50' 29"	20050422～ 20051227	4,000	一般国道 9号（益 田道路） 改築工事
専光寺脇遺跡	島根県 益田市 久城町	32204	Q23	34° 41' 39"	131° 50' 38"	20060515～ 20060921	500	一般国道 9号（益 田道路） 改築工事
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
沖手遺跡	集落跡 低湿地遺跡	縄文時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡 76 柱列 24 溝状遺構 23 井戸 6 基壇 38 土坑		丸木舟、弥生土器、石器 土師器、須恵器、 中世土師器、瓦質土器 陶磁器、金属製品 鍛冶、铸造関連遺物 木製品		縄文時代の 丸木舟が2 艘出土 中世の大規 模集落遺跡	
専光寺脇遺跡	墳墓	弥生時代	方形貼石墓 1 貼石墓 1 土坑墓・木棺墓 4 土坑	弥生土器、須恵器 土師器、青磁、金属製品		弥生時代の 方形貼石墓 では最西端 の確認例		
<p>沖手遺跡は、益田川右岸の平地に位置する中世から近世前半にかけて営まれた大規模な集落遺跡である。集落は溝状遺構や柱列によって区画されており、これらと平行して建物跡が復元できることから、規則性をもってつくられた様子が窺われる。貿易陶磁なども多數出土しており、遺跡の立地や遺物の内容から、益出川の水運を利用した交易・流通に関わる集落であった可能性も考えられる。なお、中世の遺構検出面よりもさらによく層では、弥生時代中期の水路跡や、縄文時代後期末～晩期初頭頃の丸木舟2艘が検出された。</p> <p>専光寺脇遺跡は、益田平野の東側の丘陵尾根上に位置している。方形貼石墓（1号墓）と、弧状の貼石列を伴う貼石墓（2号墓）が検出された。2号墓の出土土器からこれらはおおよそ弥生時代中期後半頃のものと考えられる。益田平野周辺では弥生時代の墳丘墓の調査は初めてであり、この地域の弥生時代の墓制を考える上で重要な資料となる。また、方形貼石墓や貼石墓の最西端の確認例として注目される。</p>								
※北緯・東経は、世界測地系による								

一般国道9号（益田道路）建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書5

沖手遺跡
専光寺脇遺跡

—中世の大規模集落遺跡と弥生時代の墳丘墓—

発行 2008（平成20）年3月

発行者 国土交通省中国地方整備局浜山河川国道事務所
島根県教育委員会

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打山町33番地

電話 0852-36-8608

印刷 島根印刷株式会社